

琉球大学学術リポジトリ

琉球大学の大学院の教育改善に関する学生調査 2016 調査報告：URGCC 学習教育目標得点率の学部・大学院間比較

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学グローバル教育支援機構 公開日: 2018-07-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤本, 裕介, 西本, 裕輝 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41107

琉球大学の大学院の教育改善に関する学生調査 2016 調査報告

－URGCC 学習教育目標得点率の学部・大学院間比較－

藤本 裕介（グローバル教育支援機構開発室 研究員）
西本 裕輝（グローバル教育支援機構 授業支援部門長）

背景・目的

URGCC 学生調査（正式名称は「琉球大学の教育改善のための学生調査」）は、2012 年度に導入された新入生を対象とした質問紙形式の経年調査である。本調査は、2015 年度まで学部学生だけを対象に実施されてきたが、2016 年度には学部学生とは別に、大学院生を対象に調査を実施した。中でも、7 つの URGCC 学習教育目標の達成度や学習状況等について調査している（URGCC 学習教育目標は Table 1 参照）。なお、7 つの URGCC 学習教育目標は本来、学士課程教育に適用されるものであるが、ここではそれを大学院生に適用した場合、学部学生と比べどの程度達成しているかを調べており、今後、大学院の学習教育目標の策定に向けた基礎資料とすることを目的とし、教育改善への一助とする。

(Table 1) 7 つの URGCC 学習教育目標

自律性	自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。
社会性	市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身につけ、多様な人々と協調・協働して行動できる。
地域・国際性	地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。
コミュニケーション・スキル	言語（日本語と外国語）とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意志を明確に表現することができる。
情報リテラシー	幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。
問題解決力	批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。
専門性	専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身につけ、活用することができる。

方法

1 調査の対象・方法

調査対象者は、本学の大学院で学ぶ全ての学生である。調査期間は2016年2月から3月であった。調査方法については、自記式の質問紙調査を行い、各指導教員に調査票（別紙：付録資料1）を配布し文書等で依頼した。また、調査対象者は大学院の学生のみであったが、学生の比較を可能とするため、分析の一部には2016年度の学士課程の学生調査結果も含まれている。

2 回収率

本調査全体の回収率は35.8%であった（Table 2）。

（Table 2）URGCC 大学院学生調査 2016 の回答者数，在籍者数および回収率

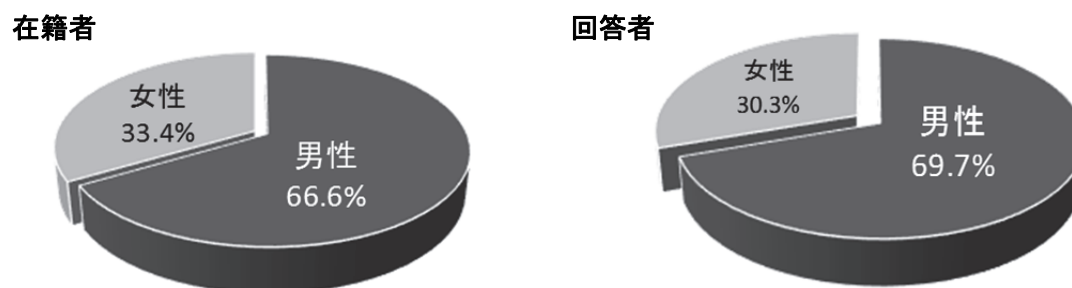
	全体	修士課程 (博士前期課程)	博士課程 (博士後期課程)	専門職学位課程	その他・不明
回答者数	316	221	69	23	3
在籍者数	882	553	278	51	
回収率	35.8%	40.0%	24.8%	45.1%	

※在籍者数(在学生を含む)は平成28年11月1日現在の数値であり、留学生及び休学者を含む。

3 回答者の属性

①性別構成比

回答者の性別構成比および全在籍者（在学者を含む）の性別構成比は下記の通りであった（Figure 1）。これにより、今回の調査対象者には極端な偏りがないことが分かる。

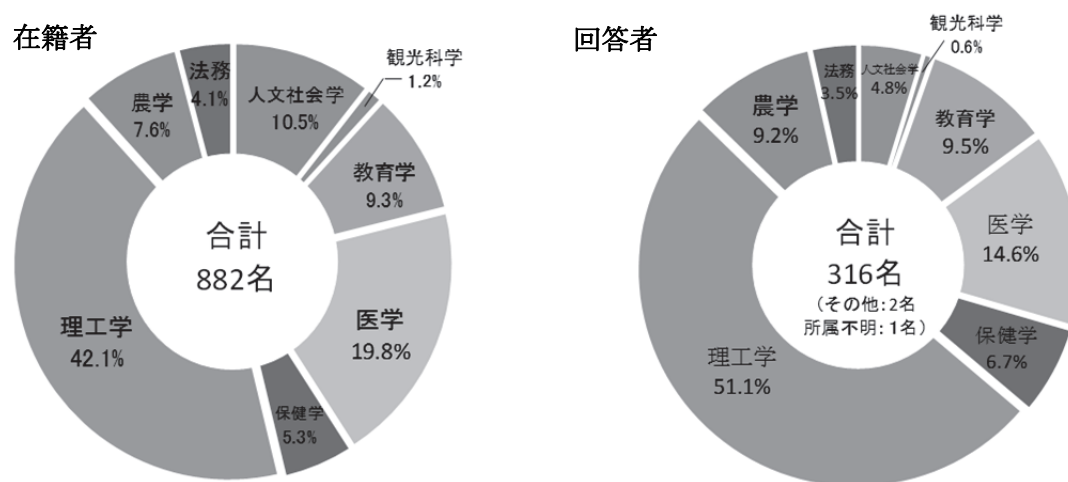


（Figure 1）在籍者および回答者の性別構成比

※2016年度教務課在籍調参照（留学生および休学者を含む）

②回答者の研究科構成比

回答者の研究科構成比および全在籍者の研究科構成比は下記の通りであった (Figure 2)。これにより、今回の調査対象者には極端な偏りがないことが分かる。



(Figure 2) 在籍者および回答者の研究科構成比

※2016年度教務課在籍調参照 (留学生および休学者を含む)

結果と分析

1 URGCC 学習教育目標得点率の算出

学士課程における URGCC 学習教育目標を大学院生だとどのくらいの達成度を示すのか達成度を把握するため、各学習教育目標を数値化した。

各学習教育目標の質問は 31 項目あり回答は 4 件法 (「とてもあてはまる」, 「ある程度あてはまる」, 「あまりあてはまらない」, 「まったくあてはまらない」) であった。分析においては、各回答を得点化し (「とてもあてはまる : 3 点」, 「ある程度あてはまる : 2 点」, 「あまりあてはまらない : 1 点」, 「まったくあてはまらない : 0 点」), 得点を得点率に換算した

(Table 3 参照)。なお、得点率に換算すると「とてもあてはまる : 100%」, 「ある程度あてはまる : 66%」, 「あまりあてはまらない : 33%」, 「まったくあてはまらない : 0%」となる。その他分析には IBM SPSS statistics version 22.0 を用いた。

(Table 3) URGCC 学習教育目標の下位項目と得点率の算出について

変数名	算出法	項目内容
自律性得点率	4項目を加算した 合計12点中の得点率	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意義を理解することができる ・目標達成のために、自律的に努力することができる ・生涯を通して学び続けようという姿勢を持つことができる ・心身の健康を自律的に維持するように努めることができる
社会性得点率	5項目を加算した 合計15点中の得点率	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の規則やルールの意味を理解し、自己の良心に従って行動できる ・他者の意見を傾聴することができる ・他者と協調・協働して行動することができる ・リーダーシップを有し、目標の実現のために行動することができる ・社会の一員としての自覚を持つことができる
地域・国際性得点率	5項目を加算した 合計15点中の得点率	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・国際社会の発展に積極的に関与することができる ・沖縄の自然・歴史・社会等と世界の状況を結びつけて理科することができる ・異文化を理解し、寛容な姿勢を持つことができる ・自然環境を理解し、自然と共生するための知識を身につけることができる ・自分が生活している地域社会の問題を理解することができる
コミュニケーション・ スキル得点率	5項目を加算した 合計15点中の得点率	<ul style="list-style-type: none"> ・高度な日本語力を持ち、活用することができる ・特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる ・語彙、論理ともに適切な文章で論文を作成することができる ・自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析・理解し、表現することができる ・様々な立場を理解し、論理的に意見を交わすことができる
情報リテラシー得点率	4項目を加算した 合計12点中の得点率	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信技術を活用することができる ・それぞれの分野において、信頼できる情報源を判断することができる ・多様な情報を収集・分析して適正に判断することができる ・収集した情報をモラルに則って活用することができる
問題解決力得点率	5項目を加算した 合計15点中の得点率	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な視座から物事を批判的に考察することができる ・問題を見いだし、創造的に解決策を考えることができる ・情報や知識を論理的に分析することができる ・獲得した知識や経験等を活用し、課題について総合的に判断することができる ・幅広い学問分野について関心を持ち、その分野から得られる知識を活用することができる
専門性得点率	3項目を加算した 合計9点中の得点率	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻する学問分野における思考法を体系的に身につけており、それらを活用することができる ・専攻する学問分野におけるスキルを体系的に身につけており、それらを活用することができる ・専攻する学問分野における知識を体系的に身につけており、それらを活用することができる

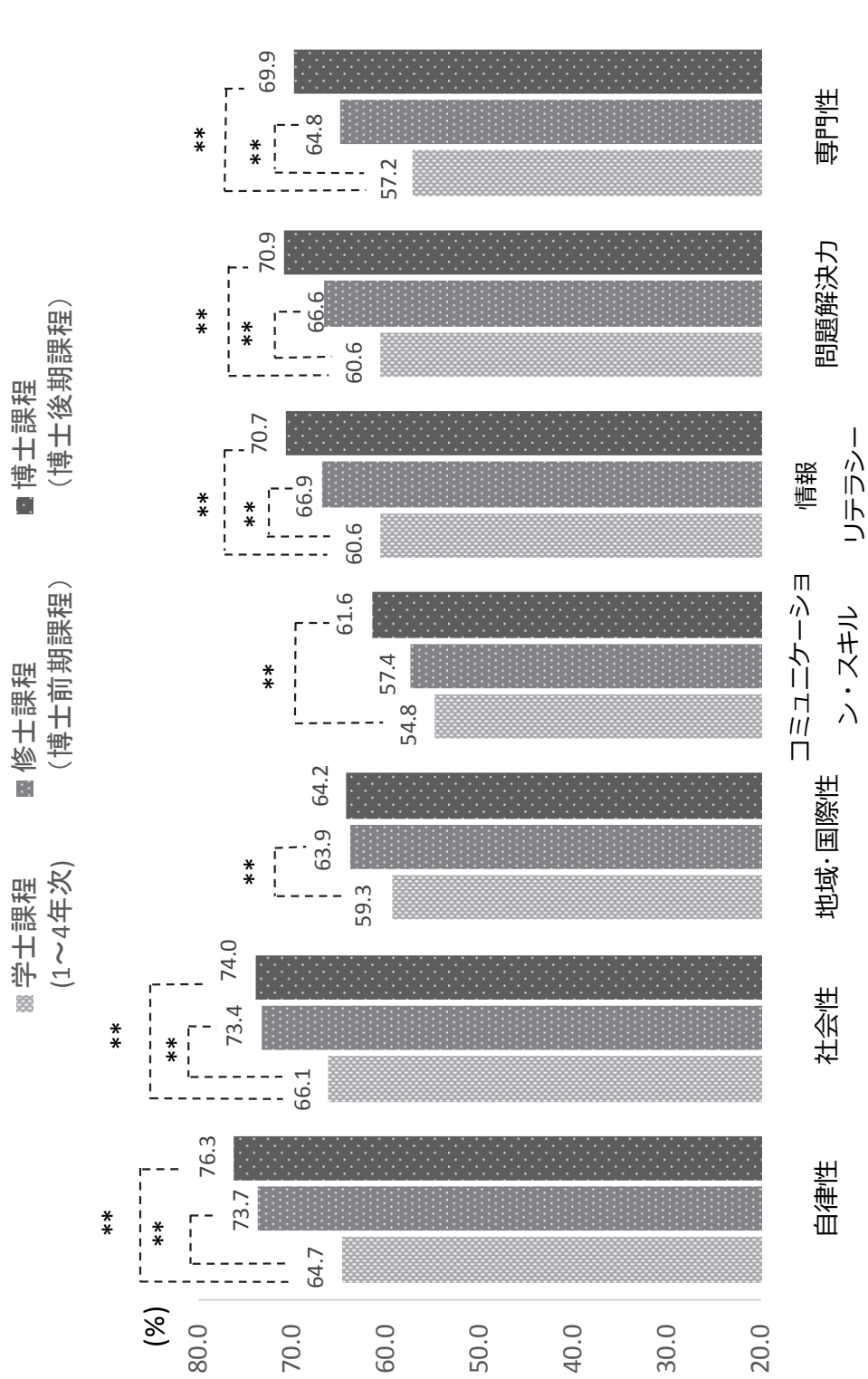
2 URGCC 学習教育目標平均得点率の所属課程間比較

調査への回答者を諸課程（修士課程，博士課程）に分け，学士課程の調査結果とともに各学習教育目標の得点率の平均を比較した。分析には，所属課程を独立変数，各学習教育目標得点率の平均を従属変数とした 1 要因 3 水準の分散分析を行い，その後 Tukey 法（Tukey の HSD 法）による多重比較を行った。その結果，全ての学習教育目標得点率の平均において，修士課程または博士課程が学士課程よりも 1%水準で有意に高かった。また，修士課程および博士課程との間に有意な差は見られなかったものの，全ての学習教育目標得点率の平均において博士課程が修士課程を上回っている。記述統計量を Table 4，分析結果を Figure 3 に示す。

(Table 4) URGCC 学習教育目標得点率の記述統計量

URGCC学習教育目標	調査対象者	度数	平均値(%)	標準偏差	最小値	最大値
自律性	学士課程	4518	64.7	17.7	0.0	100.0
	修士課程	238	73.7	16.1	33.3	100.0
	博士課程	73	76.3	15.1	41.7	100.0
社会性	学士課程	4512	66.1	16.8	0.0	100.0
	修士課程	240	73.4	15.1	13.3	100.0
	博士課程	73	74.0	15.3	13.3	100.0
地域・国際性	学士課程	4459	59.3	18.0	0.0	100.0
	修士課程	238	63.9	16.5	20.0	100.0
	博士課程	73	64.2	19.6	0.0	100.0
コミュニケーション・スキル	学士課程	4491	54.8	18.2	0.0	100.0
	修士課程	237	57.4	16.8	13.3	100.0
	博士課程	72	61.6	17.8	20.0	100.0
情報リテラシー	学士課程	4503	60.6	17.3	0.0	100.0
	修士課程	236	66.9	15.2	0.0	100.0
	博士課程	72	70.7	15.0	33.3	100.0
問題解決力	学士課程	4483	60.6	17.7	0.0	100.0
	修士課程	239	66.6	15.9	20.0	100.0
	博士課程	73	70.9	17.0	26.7	100.0
専門性	学士課程	4529	57.2	20.3	0.0	100.0
	修士課程	240	64.8	18.7	0.0	100.0
	博士課程	73	69.9	18.9	22.2	100.0

※専門職学位課程は大学院修士課程として分析を行っている。
 ※博士前期課程は修士課程、博士後期課程は博士課程に含めている。



** 1%水準で有意である

(Figure 3) URGCC 学習教育目標得点率の平均の所属課程間比較

3 1日あたりの授業外学習時間について

大学院生の授業外の学習時間について記載する。本稿では、授業外の学習時間を授業の「事前学習時間」「事後学習時間」「事前・事後学習時間」「授業と直接関連しない学習時間」「総学習時間」と区別して記載する。学生への質問としては、最近の2週間について、1日のうち平均してどのくらいの時間それぞれの学習に費やしたのか尋ねた。

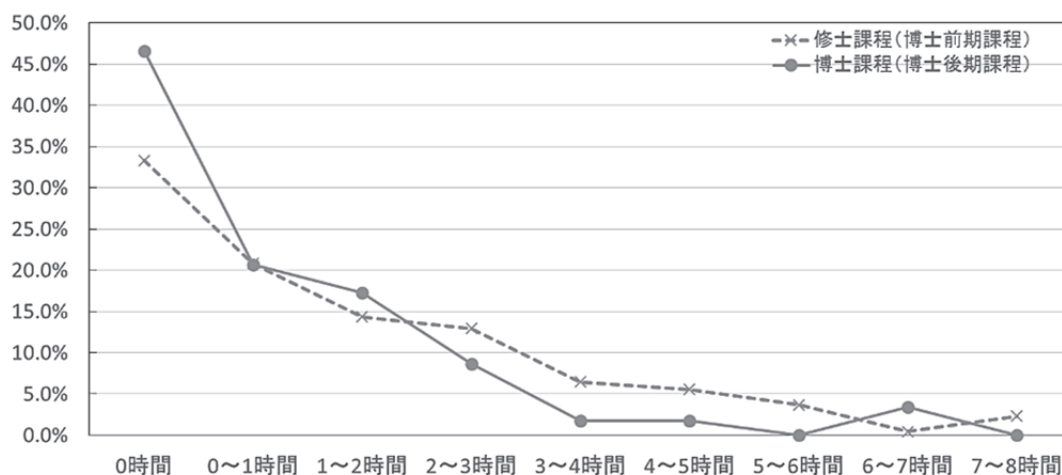
調査結果について、パーセンテージを算出しているが、これは回答者数を換算したものであり、どのくらい学生が回答したかを示している。なお、分析においては、大学院生を修士課程（博士前期課程）と博士課程（博士後期課程）で分け、専門職学位課程は修士課程に含めて算出している。

(1) 事前学習時間

事前学習の時間数の分布は下記の通りである（Table 5 & Figure 4）。結果を見ると、修士と博士課程の学生は0時間が最も多く、修士課程では33.3%、博士課程では46.6%となっている。また、2～3時間においては修士課程が13.0%、博士課程が8.6%と10%前後である。3時間以降は7%未満ではあるものの長時間学習者もいる。

(Table 5) 事前学習時間

課程	0時間	0～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6～7時間	7～8時間	度数
修士課程(博士前期課程)	33.3%	20.8%	14.4%	13.0%	6.5%	5.6%	3.7%	0.5%	2.3%	216
博士課程(博士後期課程)	46.6%	20.7%	17.2%	8.6%	1.7%	1.7%	0.0%	3.4%	0.0%	58



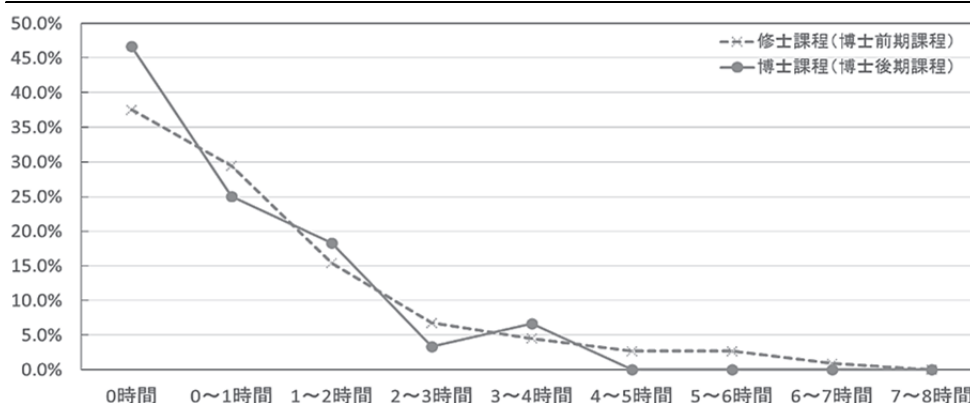
(Figure 4) 事前学習時間

(2) 事後学習時間

事後学習の時間数ごとの分布は下記の通りである (Table 6 & Figure 5)。授業の事前学習と同様、0時間が最も多く、修士課程が37.6%、博士課程が46.7%となっている。また、2～3時間以降は7%未満を示している。事前学習と比べ、事後学習の方が学習時間は短い傾向にある。

(Table 6) 事後学習時間

課程	0時間	0～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6～7時間	7～8時間	度数
修士課程(博士前期課程)	37.6%	29.4%	15.4%	6.8%	4.5%	2.7%	2.7%	0.9%	0.0%	221
博士課程(博士後期課程)	46.7%	25.0%	18.3%	3.3%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	60



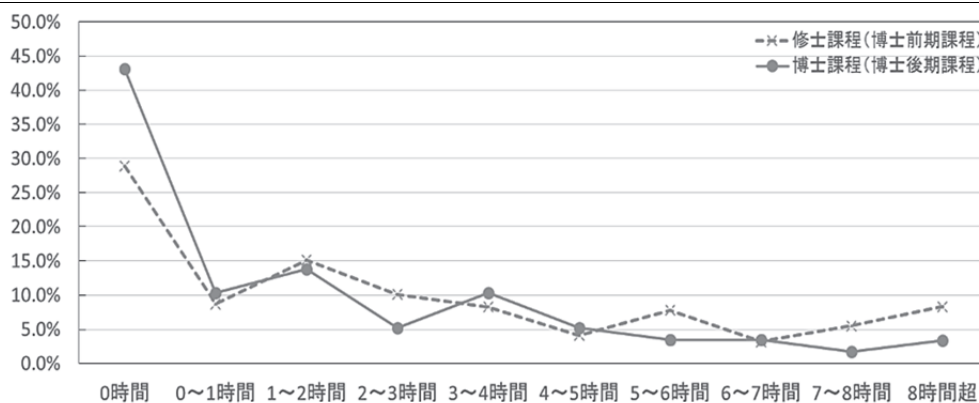
(Figure 5) 事後学習時間

(3) 事前・事後学習時間

事前学習と事後学習を合わせた「事前・事後学習時間」について下記に示す (Table 7 & Figure 6)。結果を見ると、0時間は修士課程で28.9%、博士課程で43.1%と多数を占めている。しかし、0～1時間以降はそれぞれ約15%以下となっており、時間ごとの回答者数にあまり差が見られず、学生の個人差が顕著である。

(Table 7) 事前・事後学習時間

課程	0時間	0～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6～7時間	7～8時間	8時間超	度数
修士課程(博士前期課程)	28.9%	8.7%	15.1%	10.1%	8.3%	4.1%	7.8%	3.2%	5.5%	8.3%	218
博士課程(博士後期課程)	43.1%	10.3%	13.8%	5.2%	10.3%	5.2%	3.4%	3.4%	1.7%	3.4%	58



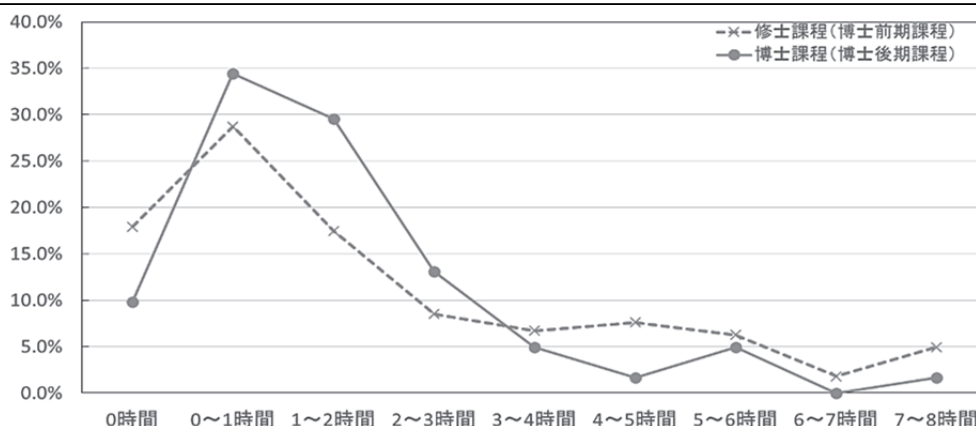
(Figure 6) 事前・事後学習時間

(4) 授業と直接関連しない学習時間

授業と直接関連しない学習時間について下記に示す (Table 8 & Figure 7)。結果を見ると、事前学習と事後学習では修士課程よりも博士課程の方が0時間が多かったのに対し、博士課程の方が少ない結果となっている。また、博士課程では0～1時間が34.4%、1～2時間が29.5%と合計して約6割を占めている。

(Table 8) 授業と関連しない学習時間

課程	0時間	0～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6～7時間	7～8時間	度数
修士課程(博士前期課程)	17.9%	28.7%	17.5%	8.5%	6.7%	7.6%	6.3%	1.8%	4.9%	223
博士課程(博士後期課程)	9.8%	34.4%	29.5%	13.1%	4.9%	1.6%	4.9%	0.0%	1.6%	61



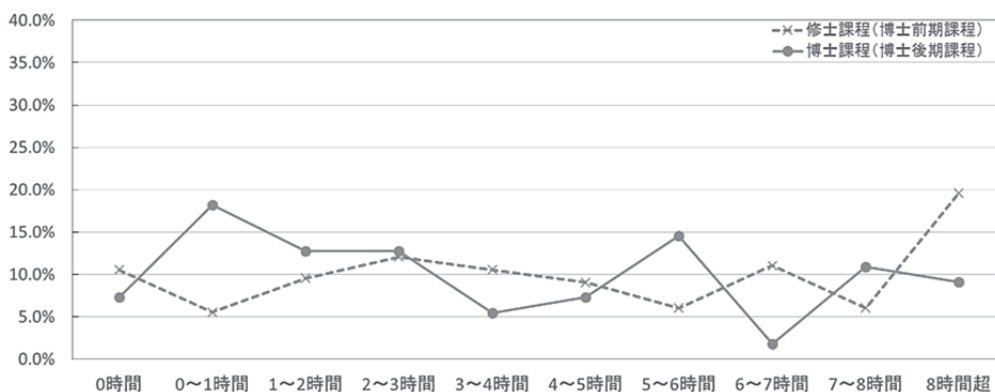
(Figure 7) 授業と関連しない学習時間

(5) 総学習時間

1日あたりの総学習時間について下記に示す (Table 9 & Figure 8)。結果を見ると、どの時間数においても20%未満となっており、グラフが横に伸びており、個人差が大きく反映されていると思われる。例えば、博士課程では、4～5時間が7.3%なのに対し、7～8時間は10.9%いる結果となっている。

(Table 9) 1日における総学習時間

課程	0時間	0～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6～7時間	7～8時間	8時間超	度数
修士課程(博士前期課程)	10.6%	5.5%	9.5%	12.1%	10.6%	9.0%	6.0%	11.1%	6.0%	19.6%	199
博士課程(博士後期課程)	7.3%	18.2%	12.7%	12.7%	5.5%	7.3%	14.5%	1.8%	10.9%	9.1%	55



(Figure 8) 総学習時間

考察

はじめに、本調査は学士課程教育（URGCC）の学習教育目標を大学院生がどの程度身につけているかを把握し、大学院における学習教育目標を策定する際の基礎データとすることを目的に実施され、学習状況についても一部把握することができた。また、本調査の回収率は35.8%と低いものの、大学院の学生を全体的に調査することができた。

調査結果を受けて、学部で実施されている URGCC 学習教育目標を大学院生に適用した場合、修士課程と博士課程との間に有意な差は見られなかったものの、修士課程と博士課程ともに URGCC 学習教育目標の得点率が学部生よりも高く、ほとんどの項目で有意な結果が得られた。これは、修士および博士課程の学生が学部学生よりも目標の達成度が高いことを示唆するものである。また、修士課程と博士課程との間に有意な差は見られなかったが、このことから、所属課程が異なっても同等の水準で目標を身につけていることが考えられる。また、大学院生における地域・国際性およびコミュニケーション・スキルの自己評価が他の学習教育目標と比べやや低くなっているが、これは学部学生と同様であり、本学の学生全体に共通する傾向である可能性が示唆される。

次に、学習時間については、修士課程と博士課程それぞれの学習時間について把握することができた。まず、事前学習と事後学習については、それぞれ 0 時間と回答する者の割合が 30%以上あり、おおよそ 3 人に 1 人が該当する。これは事前学習と事後学習を合わせた事前・事後学習でも同じであり、0 時間が修士課程で 28.9%、博士課程で 43.1%となっている。これに対し、2016 年度の学部学生の調査結果では、事前学習と事後学習はそれぞれ 0 時間が 15%未満となっている。この結果より、特に、博士課程の 0 時間の回答者数が多いが、カリキュラム上授業そのものが少ないことが第 1 の理由として考えられるとともに、専門性の高さから研究や実習等の時間が多く、学習時間に含まれていないことが第 2 の理由として挙げられる。ただし、研究や実習は授業と関連し得るものであることから、事前学習および事後学習として捉えていない可能性がある。あくまで授業のための学習という視点で見た場合に、上記のような結果となっており、質問項目そのものを見直す必要があるかもしれない。また、調査時期が年度末であったことから、授業等が無く学習機会の少ない時期であった可能性がある。次に、授業と関連しない学習については、修士課程と博士課程ともに 3 時間以内が多く、例えば 5～6 時間では 5%前後と長時間の者も少なからずいる。しかし、これも研究のような学習も含まれているのか把握できていないため、どのような学習を示しているのか不明である。総学習時間については、最も学習状況を反映していると思われる。結果を見ると、回答者数すべてが 20%未満の値を示しており、学生の個人差が大きいことが示唆される。個人差が個人そのものによるものなのか、カリキュラムの影響によるものであるのか等について、今後検討することが求められる。

今後の課題

本調査では本学の大学院生を対象に調査を行い、大学院生における学士課程の URGCC 学習教育目標の達成度を測定した。現在、大学院教育プログラム委員会では、大学院の学習教育目標の構築について検討され、専門性の高い教育課程に対し、どのような目標を選定するのか審議の対象となっている。このように、大学院における学習教育目標について現在検討されているものの、大学院生を対象とした学習に関する全体的な調査は、これまでほとんど実施されてこなかった。そのため、本調査は大学院生の学習状況を把握する上で有益なものであり、重要な基礎資料となる。今後、得られた調査結果を教育改善に繋げることが重要であり課題となる。また、今回の調査の反省を踏まえ、調査の信頼性および正確性をより高め、実施時期の調整等、今後調査をする際には十分に検討する必要がある。

琉球大学の大学院の教育改善に関する学生調査

この調査は、大学院生の皆さんが普段どのように考え、過ごしているのか等について調査し、その回答結果を今後の本学の教育改善に役立てていくために行う大切なものです。回答は選択肢に○をつけるものと、語句または数値を記入するものがあります。質問文にしたがって、ありのままのことをお答えください。回答できない箇所は空白にしてください。構いません。

なお、ご回答いただいた内容は、個人が特定される形で公表されることはありませんので、安心してお答えください。

本調査票は、全部で5ページあり、回答時間の目安は5分程度です。

それではご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

対 象：大学院の学生

締 切：平成 29 年 3 月 15 日（水）

提 出 先：グローバル教育支援機構開発室

平成 29 年 2 月

グローバル教育支援機構 開発室長 狩 俣 繁 久

<問い合わせ先>

グローバル教育支援機構開発室（賀数、古堅）

TEL：098-895-8742

E-mail：dgurgcc@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

問1 あなた自身に関することについてお聞きします。Aの学籍番号については、今後、本学学生の現況について追跡的に把握を行っていく上で重要な情報となりますので、できる限りご記入願います（個人が特定できる形で公表することはありません）。また、B、C、Eについてはあてはまる番号に○をつけ、Dについては数字を記入してください。

A. 学籍番号 →

--	--	--	--	--	--	--	--

B. 学年 1. M1 2. M2 3. D1 4. D2 5. D3 6. D4
7. その他（ ）

C. 性別 1. 男性 2. 女性

D. 生まれた年・月 西暦（ ）年（ ）月

E. 出身地 1. 県内 2. 県外 3. 国外

問2 あなたが所属する**研究科・専攻**について、あてはまる番号の横に1つ○をつけてください。**該当するものがない方は、「27」に○をつけ、所属を記入してください。**

研究科名	課程	専攻名	番号	○印
人文社会科学研究科	博士前期課程	総合社会システム専攻	1	
		人間科学専攻	2	
		国際言語文化専攻	3	
	博士後期課程	比較地域文化専攻	4	
観光科学研究科	修士課程	観光科学専攻	5	
教育学研究科	修士課程	学校教育専攻	6	
		特別支援教育専攻	7	
		臨床心理学専攻	8	
		教科教育専攻 (専修) 人文社会教育専修、自然科学教育専修、 芸術表現教育専修、生活科学教育専修、 保健体育専修	9	
	専門職学位課程	高度教職実践専攻	10	
医学研究科	修士課程	医科学専攻	11	
	博士課程	医学専攻	12	

次の頁へ続く

研究科名	課程	専攻名	番号	○印
保健学研究科	博士前期課程	保健学専攻	13	
	博士後期課程	保健学専攻	14	
理工学研究科	博士前期課程	機械システム工学専攻	15	
		環境建設工学専攻	16	
		電気電子工学専攻	17	
		情報工学専攻	18	
		数理科学専攻	19	
		物質地球科学専攻	20	
		海洋自然科学専攻	21	
	博士後期課程	生産エネルギー工学専攻	22	
		総合知能工学専攻	23	
		海洋環境学専攻	24	
農学研究科	修士課程	亜熱帯農学専攻	25	
法務研究科	専門職学位課程	法務専攻	26	

(該当するものがない方)

27. 該当なし →所属を記入してください ()

問3 あなたは琉球大学大学院への入学をどの程度望んでいましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. ぜひこの大学院に入学したかった
2. もっと入学したい大学院が他にあった
3. 特にどこの大学院に入学したいということはない

問4 あなたは、最近の2週間について、1日のうち平均してどのくらいの時間を、授業の事前学習（次回の授業の準備として行う予習・課題学習等）に費やしましたか。（ ）内に数値を記入してください。

1日あたりの平均学習時間：（ ）時間（ ）分
(授業の事前学習)

問5 あなたは、最近の2週間について、1日のうち平均してどのくらいの時間を、授業の事後学習（各回の授業の振り返りとして行う復習・課題学習等）に費やしましたか。（ ）内に数値を記入してください。

1日あたりの平均学習時間：（ ）時間（ ）分
(授業の事後学習)

問6 あなたは、最近の2週間について、1日のうち平均してどのくらいの時間を、単位に直接関係しない自主的な学習に費やしましたか。（ ）内に数値を記入してください。

1日あたりの平均学習時間：（ ）時間（ ）分
(単位に直接関係しない自主的な学習)

問7 あなたの最近の2週間の平均睡眠時間はどのくらいですか。（ ）内に数値を記入してください。

1日あたりの平均睡眠時間：（ ）時間（ ）分

問8 あなたには、次のことがどれくらいあてはまりますか。A～eそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	とてもあてはまる	ある程度あてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
A. 大学院で学ぶ意義を理解することができる	4	3	2	1
B. 社会の規範やルールの意味を理解し、自己の良心に従って行動できる	4	3	2	1
C. 地域・国際社会の発展に積極的に関与することができる	4	3	2	1
D. 高度な日本語力を持ち、活用することができる	4	3	2	1
E. 情報通信技術を活用することができる	4	3	2	1
F. 様々な視座から物事を批判的に考察することができる	4	3	2	1
G. 専攻する学問分野における思考法を体系的に身につけており、それらを活用することができる	4	3	2	1
H. 目標達成のために、自律的に努力することができる	4	3	2	1

	とても あてはまる	ある程度 あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
I. 他者の意見を傾聴することができる……………	4	3	2	1
J. 沖縄の自然・歴史・社会等と世界の状況を 結びつけて理解することができる……………	4	3	2	1
K. 特定の外国語を用いて、読み、書き、 聞き、話すことができる……………	4	3	2	1
L. それぞれの分野において、信頼できる 情報源を判断することができる……………	4	3	2	1
M. 問題を見だし、創造的に解決策を 考えることができる……………	4	3	2	1
N. 専攻する学問分野におけるスキルを体系的に 身につけており、それらを活用することができる……………	4	3	2	1
O. 生涯を通して学び続けようという 姿勢を持つことができる……………	4	3	2	1
P. 他者と協調・協働して行動することができる……………	4	3	2	1
Q. 異文化を理解し、寛容な姿勢を持つことができる……………	4	3	2	1
R. 語彙、論理ともに適切な文章で 論文を作成することができる……………	4	3	2	1
S. 多様な情報を収集・分析して 適正に判断することができる……………	4	3	2	1
T. 情報や知識を論理的に分析することができる……………	4	3	2	1
U. 専攻する学問分野における知識を体系的に 身につけており、それらを活用することができる……………	4	3	2	1
V. 心身の健康を自律的に維持するように 努めることができる……………	4	3	2	1
W. リーダーシップを有し、目標の実現のために 行動することができる……………	4	3	2	1
X. 自然環境を理解し、自然と共生するための 知識を身につけることができる……………	4	3	2	1
Y. 自然や社会的事象について、シンボルを活用して 分析・理解し、表現することができる……………	4	3	2	1
Z. 収集した情報をモラルに則って 活用することができる……………	4	3	2	1
a. 獲得した知識や経験等を活用し、課題について 総合的に判断することができる……………	4	3	2	1
b. 社会の一員としての自覚を持つことができる……………	4	3	2	1
c. 自分が生活している地域社会の問題を 理解することができる……………	4	3	2	1
d. 様々な立場を理解し、論理的に意見を 交わすことができる……………	4	3	2	1
e. 幅広い学問分野について関心を持ち、その分野から 得られる知見を活用することができる……………	4	3	2	1

問9 あなたには、次のことがどれくらいあてはまりますか。A～I それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	とても あてはまる	ある程度 あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
A. シラバスの記載状況に満足している	4	3	2	1
B. 授業の履修を決定する際や学習計画を立てる際に、シラバスを活用した	4	3	2	1
C. 所属する専攻のカリキュラムに満足している	4	3	2	1
D. 所属する専攻のカリキュラムは、社会からのニーズに対応していると思う	4	3	2	1
E. 所属する専攻のカリキュラムは、専門分野の学術動向に対応していると思う	4	3	2	1
F. あなたの所属する研究科、専攻の卒業要件として履修する科目の内容及びレベルはあなたが取得する学位に対して適切であると思う	4	3	2	1
G. 大学院での学習指導は適切であった	4	3	2	1
H. 学位論文執筆を含む研究指導体制は、計画的で適切であった	4	3	2	1
I. あなたが履修している各授業の達成目標及び成績評価基準（学位論文を含む）を理解している	4	3	2	1
J. 教員の成績評価（学位論文審査、修了認定等を含む）は適切であったか。	4	3	2	1

お疲れ様でした。ご協力ありがとうございました！

項目	回答	全体(%)	修士課程(%)	博士課程(%)
所属する学年	M1	37.5	50.2	—
	M2	37.2	49.8	—
	D1	7.0	—	29.6
	D2	7.6	—	32.4
	D3	4.7	—	19.7
	D4	4.3	—	18.3
	その他	1.7	—	—
入学志望程度	「ぜひこの大学に入学したかった」	67.7	69.4	63.4
	「もっと入学したい大学院が他にあった」	9.3	12.2	2.8
	「特にどこの大学院に入学したいということとはなかった」	23.0	18.5	33.8
授業事前学習時間	0時間	36.2	33.3	46.6
	0時間超1時間以下	20.7	20.8	20.7
	1時間超2時間以下	15.2	14.4	17.2
	2時間超3時間以下	12.0	13.0	8.6
	3時間超4時間以下	5.4	6.5	1.7
	4時間超5時間以下	4.7	5.6	1.7
	5時間超6時間以下	2.9	3.7	0.0
	6時間超7時間以下	1.1	0.5	3.4
7時間超8時間以下	1.8	2.3	0.0	
授業事後学習時間	0時間	39.6	37.6	46.7
	0時間超1時間以下	28.3	29.4	25.0
	1時間超2時間以下	16.3	15.4	18.3
	2時間超3時間以下	6.0	6.8	3.3
	3時間超4時間以下	4.9	4.5	6.7
	4時間超5時間以下	2.1	2.7	0.0
	5時間超6時間以下	2.1	2.7	0.0
	6時間超7時間以下	0.7	0.9	0.0
7時間超8時間以下	0.0	0.0	0.0	
事前学習＋事後学習時間	0時間	33.1	28.9	43.1
	0時間超1時間以下	9.3	8.7	10.3
	1時間超2時間以下	15.2	15.1	13.8
	2時間超3時間以下	9.3	10.1	5.2
	3時間超4時間以下	9.3	8.3	10.3
	4時間超5時間以下	4.5	4.1	5.2
	5時間超6時間以下	7.1	7.8	3.4
	6時間超7時間以下	3.3	3.2	3.4
	7時間超8時間以下	4.8	5.5	1.7
	8時間超9時間以下	1.9	1.8	1.7
	9時間超10時間以下	1.9	2.3	0.0
	10時間超11時間以下	0.4	0.5	0.0
11時間超12時間以下	0.0	3.7	1.7	

項目	回答	全体(%)	修士課程(%)	博士課程(%)
単位に関係しない学習時間	0時間	16.1	17.9	9.8
	0時間超1時間以下	30.1	28.7	34.4
	1時間超2時間以下	20.3	17.5	29.5
	2時間超3時間以下	9.4	8.5	13.1
	3時間超4時間以下	6.3	6.7	4.9
	4時間超5時間以下	6.3	7.6	1.6
	5時間超6時間以下	5.9	6.3	4.9
	6時間超7時間以下	1.4	1.8	0.0
	7時間超8時間以下	4.2	4.9	1.6
総学習時間(事前学習+事後学習+単位に関係しない学習)	0時間	11.1	10.6	7.3
	0時間超1時間以下	16.0	5.5	18.2
	1時間超2時間以下	9.4	9.5	12.7
	2時間超3時間以下	10.8	12.1	12.7
	3時間超4時間以下	8.3	10.6	5.5
	4時間超5時間以下	8.0	9.0	7.3
	5時間超6時間以下	6.9	6.0	14.5
	6時間超7時間以下	8.0	11.1	1.8
	7時間超8時間以下	6.3	6.0	10.9
	8時間超9時間以下	4.2	6.0	0.0
	9時間超10時間以下	6.3	7.0	7.3
	10時間超11時間以下	1.0	1.5	0.0
	11時間超12時間以下	3.8	5.0	1.8
平均睡眠時間	0時間	0.0	0.0	0.0
	0時間超1時間以下	0.3	0.4	0.0
	1時間超2時間以下	0.0	0.0	0.0
	2時間超3時間以下	2.5	2.2	4.2
	3時間超4時間以下	2.9	3.6	0.0
	4時間超5時間以下	17.5	12.9	26.8
	5時間超6時間以下	41.6	43.1	42.3
	6時間超7時間以下	19.0	20.0	14.1
	7時間超8時間以下	13.7	14.2	12.7
	8時間超9時間以下	2.2	3.1	0.0
	9時間超10時間以下	0.3	0.4	0.0
	10時間超11時間以下	0.0	0.0	0.0
	11時間超12時間以下	0.0	0.0	0.0
大学院で学ぶ意義を理解することができる	とてもあてはまる	46.8	46.0	54.9
	ある程度あてはまる	49.4	50.4	39.4
	あまりあてはまらない	3.8	3.6	5.6
	まったくあてはまらない	0.0	0.0	0.0

項目	回答	全体(%)	修士課程(%)	博士課程(%)
社会の規範やルールの意味を理解し、自己の良心に従って行動できる	とてもあてはまる	46.5	47.1	49.3
	ある程度あてはまる	48.4	48.0	45.1
	あまりあてはまらない	4.7	4.9	4.2
	まったくあてはまらない	0.3	0.0	1.4
地域・国際社会の発展に積極的に関与することができる	とてもあてはまる	23.9	23.6	30.0
	ある程度あてはまる	45.9	44.9	45.7
	あまりあてはまらない	27.4	28.0	24.3
	まったくあてはまらない	2.9	3.6	0.0
高度な日本語力を持ち、活用することができる	とてもあてはまる	13.7	12.5	18.3
	ある程度あてはまる	53.3	52.7	56.3
	あまりあてはまらない	30.8	32.1	25.4
	まったくあてはまらない	2.2	2.7	0.0
情報通信技術を活用することができる	とてもあてはまる	20.1	20.6	18.3
	ある程度あてはまる	56.1	55.6	57.7
	あまりあてはまらない	21.0	20.6	21.1
	まったくあてはまらない	2.9	3.1	2.8
様々な視座から物事を批判的に考察することができる	とてもあてはまる	22.8	22.2	26.8
	ある程度あてはまる	58.2	58.2	54.9
	あまりあてはまらない	18.0	18.2	18.3
	まったくあてはまらない	0.9	1.3	0.0
専攻する学問分野における思考法を体系的に身につけており、それらを活用することができる	とてもあてはまる	19.0	16.4	29.6
	ある程度あてはまる	60.4	62.2	56.3
	あまりあてはまらない	19.6	20.4	12.7
	まったくあてはまらない	0.9	0.9	1.4
目標達成のために、自律的に努力することができる	とてもあてはまる	30.4	32.0	28.2
	ある程度あてはまる	55.1	52.0	63.4
	あまりあてはまらない	13.6	14.7	8.5
	まったくあてはまらない	0.9	1.3	0.0
他者の意見を傾聴することができる	とてもあてはまる	46.7	48.4	46.5
	ある程度あてはまる	51.1	49.8	50.7
	あまりあてはまらない	2.2	1.8	2.8
	まったくあてはまらない	0.0	0.0	0.0

項目	回答	全体(%)	修士課程(%)	博士課程(%)
沖縄の自然・歴史・社会等と世界の状況を結びつけて理解することができる	とてもあてはまる	12.4	11.1	20.0
	ある程度あてはまる	46.8	49.3	38.6
	あまりあてはまらない	36.0	5.8	38.6
	まったくあてはまらない	4.8	5.8	2.9
特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる	とてもあてはまる	12.5	11.7	16.9
	ある程度あてはまる	31.7	30.0	38.0
	あまりあてはまらない	40.1	42.6	33.8
	まったくあてはまらない	15.7	15.7	11.3
それぞれの分野において、信頼できる情報源を判断することができる	とてもあてはまる	17.3	14.7	28.2
	ある程度あてはまる	67.1	68.8	60.6
	あまりあてはまらない	15.0	15.6	11.3
	まったくあてはまらない	0.6	0.9	0.0
問題を見だし、創造的に解決策を考えることができる	とてもあてはまる	18.5	17.0	25.4
	ある程度あてはまる	58.0	60.3	53.5
	あまりあてはまらない	22.6	21.4	21.1
	まったくあてはまらない	1.0	1.3	0.0
専攻する学問分野におけるスキルを体系的に身につけており、それらを活用することができる	とてもあてはまる	18.7	18.2	25.4
	ある程度あてはまる	59.4	60.0	53.5
	あまりあてはまらない	21.3	21.3	19.7
	まったくあてはまらない	0.6	0.4	1.4
生涯を通して学び続けようという姿勢を持つことができる	とてもあてはまる	41.6	39.1	50.7
	ある程度あてはまる	51.7	53.3	46.5
	あまりあてはまらない	6.3	7.1	2.8
	まったくあてはまらない	0.3	0.4	0.0
他者と協調・協働して行動することができる	とてもあてはまる	38.4	37.8	45.1
	ある程度あてはまる	54.0	53.8	50.7
	あまりあてはまらない	7.3	8.0	4.2
	まったくあてはまらない	0.3	0.4	0.0
異文化を理解し、寛容な姿勢を持つことができる	とてもあてはまる	40.8	39.7	45.1
	ある程度あてはまる	51.9	52.2	49.3
	あまりあてはまらない	6.7	7.1	5.6
	まったくあてはまらない	0.6	0.9	0.0
語彙、論理ともに適切な文章で論文を作成することができる	とてもあてはまる	11.1	10.2	14.1
	ある程度あてはまる	54.9	56.4	52.1
	あまりあてはまらない	31.1	29.8	32.4
	まったくあてはまらない	2.9	3.6	1.4
多様な情報を収集・分析して適正に判断することができる	とてもあてはまる	17.8	15.6	26.8
	ある程度あてはまる	65.4	67.6	57.7
	あまりあてはまらない	16.2	16.4	14.1
	まったくあてはまらない	0.6	0.4	1.4
情報や知識を論理的に分析することができる	とてもあてはまる	16.8	15.1	25.4
	ある程度あてはまる	65.1	67.1	57.7
	あまりあてはまらない	17.5	17.3	15.5
	まったくあてはまらない	0.6	0.4	1.4

項目	回答	全体(%)	修士課程(%)	博士課程(%)
専攻する学問分野における知識を体系的に身につけており、それらを活用することができる	とてもあてはまる	17.8	16.4	23.9
	ある程度あてはまる	65.4	66.7	63.4
	あまりあてはまらない	15.6	16.0	9.9
	まったくあてはまらない	1.3	0.9	2.8
心身の健康を自律的に維持するように努めることができる	とてもあてはまる	25.4	25.8	29.6
	ある程度あてはまる	51.4	52.4	46.5
	あまりあてはまらない	20.3	18.7	22.5
	まったくあてはまらない	2.9	3.1	1.4
リーダーシップを有し、目標の実現のために行動することができる	とてもあてはまる	11.8	13.8	8.6
	ある程度あてはまる	49.0	46.7	60.0
	あまりあてはまらない	35.4	34.7	30.0
	まったくあてはまらない	3.8	4.9	1.4
自然環境を理解し、自然と共生するための知識を身につけることができる	とてもあてはまる	14.3	16.0	12.7
	ある程度あてはまる	53.0	54.2	47.9
	あまりあてはまらない	29.8	25.8	39.4
	まったくあてはまらない	2.9	4.0	0.0
自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析・理解し、表現することができる	とてもあてはまる	9.8	8.9	15.5
	ある程度あてはまる	51.4	55.6	39.4
	あまりあてはまらない	35.6	32.4	42.3
	まったくあてはまらない	3.2	3.1	2.8
収集した情報をモラルに則って活用することができる	とてもあてはまる	26.1	22.7	35.7
	ある程度あてはまる	67.2	69.3	61.4
	あまりあてはまらない	6.1	7.1	2.9
	まったくあてはまらない	0.6	0.9	0.0
獲得した知識や経験等を活用し、課題について総合的に判断することができる	とてもあてはまる	21.0	17.3	38.0
	ある程度あてはまる	68.6	71.1	54.9
	あまりあてはまらない	9.8	10.7	7.0
	まったくあてはまらない	0.6	0.9	0.0
社会の一員としての自覚を持つことができる	とてもあてはまる	33.3	31.6	43.7
	ある程度あてはまる	54.9	55.6	47.9
	あまりあてはまらない	10.2	10.7	8.5
	まったくあてはまらない	1.6	2.2	0.0
自分が生活している地域社会の問題を理解することができる	とてもあてはまる	20.6	20.0	26.8
	ある程度あてはまる	58.4	57.8	57.7
	あまりあてはまらない	18.7	20.0	12.7
	まったくあてはまらない	2.2	2.2	2.8
様々な立場を理解し、論理的に意見を交わすことができる	とてもあてはまる	25.7	23.1	35.2
	ある程度あてはまる	61.0	63.6	53.5
	あまりあてはまらない	13.0	13.3	9.9
	まったくあてはまらない	0.3	0.0	1.4
幅広い学問分野について関心を持ち、その分野から得られる知見を活用することができる	とてもあてはまる	24.4	21.3	36.6
	ある程度あてはまる	61.0	63.6	52.1
	あまりあてはまらない	13.7	14.2	9.9
	まったくあてはまらない	1.0	0.9	1.4

項目	回答	全体(%)	修士課程(%)	博士課程(%)
URGCC自律性得点率	0%以上20%以下	0.0	0.0	0.0
	20%超40%以下	1.6	1.8	0.0
	40%超60%以下	17.9	18.8	14.1
	60%超80%以下	42.8	42.4	40.8
	80%超	37.7	37.1	45.1
URGCC社会性得点率	0%以上20%以下	0.6	0.4	1.4
	20%超40%以下	1.9	1.8	1.4
	40%超60%以下	21.0	21.8	15.5
	60%超80%以下	47.6	47.1	46.5
	80%超	28.9	28.9	35.2
URGCC地域・国際性得点率	0%以上20%以下	2.2	0.4	2.8
	20%超40%以下	9.9	11.6	8.5
	40%超60%以下	34.8	33.5	36.6
	60%超80%以下	40.6	42.9	32.8
	80%超	12.5	11.6	18.3
URGCCコミュニケーション・スキル得点率	0%以上20%以下	1.9	2.3	1.4
	20%超40%以下	16.7	15.8	12.7
	40%超60%以下	41.8	43.7	38.0
	60%超80%以下	31.8	32.4	35.2
	80%超	7.7	5.9	12.7
URGCC情報リテラシー得点率	0%以上20%以下	0.3	0.5	0.0
	20%超40%以下	2.6	3.2	1.4
	40%超60%以下	28.1	28.4	24.3
	60%超80%以下	49.0	51.4	42.9
	80%超	20.0	16.7	31.4
URGCC問題解決力得点率	0%以上20%以下	0.6	0.9	0.0
	20%超40%以下	5.7	4.5	7.0
	40%超60%以下	28.7	29.9	23.9
	60%超80%以下	48.1	50.9	40.8
	80%超	16.9	13.8	28.2
URGCC専門性得点率	0%以上20%以下	1.0	0.9	1.4
	20%超40%以下	9.8	9.3	7.0
	40%超60%以下	19.4	20.9	15.5
	60%超80%以下	54.0	54.2	52.1
	80%超	15.9	14.7	23.9
シラバスの記載状況に満足している	まったくあてはまらない	2.5	2.2	4.3
	あまりあてはまらない	30.3	30.2	28.6
	ある程度あてはまる	51.3	50.2	51.4
	とてもあてはまる	15.9	17.3	15.7
授業の履修を決定する際や学習計画を立てる際に、シラバスを活用した	まったくあてはまらない	7.3	7.1	9.9
	あまりあてはまらない	27.7	26.3	31.0
	ある程度あてはまる	44.9	46.9	38.0
	とてもあてはまる	20.1	19.6	21.1

項目	回答	全体(%)	修士課程(%)	博士課程(%)
所属する専攻のカリキュラムに満足している	まったくあてはまらない	3.9	3.6	4.3
	あまりあてはまらない	18.6	17.1	24.3
	ある程度あてはまる	56.9	58.6	51.4
	とてもあてはまる	20.6	20.7	20.0
所属する専攻のカリキュラムは、社会からのニーズに対応していると思う	まったくあてはまらない	3.2	2.7	2.8
	あまりあてはまらない	19.0	20.9	16.9
	ある程度あてはまる	58.1	57.8	59.2
	とてもあてはまる	19.7	18.7	21.1
所属する専攻のカリキュラムは、専門分野の学術動向に対応していると思う	まったくあてはまらない	2.3	2.2	2.9
	あまりあてはまらない	15.4	16.6	12.9
	ある程度あてはまる	58.5	58.3	58.6
	とてもあてはまる	23.8	22.9	25.7
あなたの所属する研究科、専攻の卒業要件として履修する科目の内容及びレベルはあなたが取得する学位に対して適切であると思う	まったくあてはまらない	3.2	2.2	5.7
	あまりあてはまらない	7.4	7.6	4.3
	ある程度あてはまる	61.9	60.5	67.1
	とてもあてはまる	27.6	29.6	22.9
大学院での学習指導は適切であった	まったくあてはまらない	2.6	2.3	2.9
	あまりあてはまらない	9.1	8.1	10.1
	ある程度あてはまる	51.5	49.3	56.5
	とてもあてはまる	36.9	40.3	30.4
学位論文執筆を含む研究指導体制は、計画的で適切であった	まったくあてはまらない	2.0	1.8	1.5
	あまりあてはまらない	12.9	13.3	7.4
	ある程度あてはまる	48.2	45.9	58.8
	とてもあてはまる	37.0	39.0	32.4
あなたが履修している各授業の達成目標及び成績評価基準(学位論文を含む)を理解している	まったくあてはまらない	0.6	0.4	1.4
	あまりあてはまらない	9.3	9.4	7.1
	ある程度あてはまる	55.4	54.7	57.1
	とてもあてはまる	34.6	35.4	34.3
教員の成績評価(学位論文審査、終了認定等を含む)は適切であったか	まったくあてはまらない	0.7	0.9	0.0
	あまりあてはまらない	3.6	2.7	6.1
	ある程度あてはまる	50.0	48.4	51.5
	とてもあてはまる	45.8	48.0	42.4